

* 10 月のミサ。

主日のミサ(10:30～) 2 日・16 日・23 日・30 日

第 2 日曜は日本語ミサはありません。

ご注意下さい。

平日のミサ(10:30～) 6 日・13 日・20 日・27 日(木曜日)

※9 日(日)はベトナム語の黙想会(10:00～)とミサ(11:00～)があります。

奈良県下のコロナ感染者数は減少傾向ですが気を緩めることなく感染対策を致します。自分と周りの人の『いのちを守る』ためにマスク着用、3 密の回避、手指消毒など基本を徹底して下さい。

聖堂でのおしゃべりは慎んでください。ミサ終了後はホールでの会話も控えて下さい。どうしても必要な場合は教会の外でお願いします。

* 本日は奉仕日です。

ミサ後 聖堂のフックス掛けをしますので男性の方はご協力下さい。

* 本日 2 日(日)11 時～富雄教会で合同堅信式(大塚司教様・ランディ神父様司式)があります。堅信を受ける方の為に祈りください。

* 10 月 9 日(日) 『たかだおかげ祭り』にベトナム人グループが「連」を作りパレードに参加します。沿道で応援をお願いします。

又、当日 ベトナム人グループ『シンチャオ(こんにちは)連』に付き添って下さるサポーターを募集します。詳しくは国際協力委員まで。

* 10 月 16 日(日)サンパウロ書店のカトリック用品・書籍販売があります。

* シノドスに向けての『回答のまとめと総評』(大塚司教様より)が『京都教区時報9月号』に載っています。ぜひ、お読みください。

* 2022 年度奈良ブロックオンライン聖書講座

「今、愛を生き『いのち』をつなぐ ルカ福音書に学ぶ」(全5回)
を配信しています。10 月 10 日までどなたでも視聴可能です。

奈良ブロックのホームページ →

動画は Wi-Fi 環境下で



信仰は比べられるもの？

前回の福音のあと、つまずきについての短い戒めに続いて今日の箇所となります。弟子たちの「信仰を増してください」という願いから、イエスはたとえ話を通して信仰について教えられます。

最近では辛さ増し増しとか、ニンニク激増し餃子とか食品などで増すのが流行っているようですが、好みが分かれるニンニクなどはともかく、「信仰を増す」という願いはみんなにとって必要なように思います。しかし、イエスは否定的に語られているようです。さらに、「からし種一粒ほどの信仰があれば木が海に根を下ろす」と言われているのは、弟子たちをはじめ、だれにも信仰がない、という意味だとも考えられます。ではイエスの語られる信仰のイメージは何でしょうか。弟子たちのイメージとどのように違うのでしょうか。

弟子たちが「信仰を増してください」と言ったとき、彼らは信仰を点数のように考えていたのかもしれませんが。学校のテストでは正解数が点数となっはつきりと表れます。そして点数によって順位をつけることができます。彼らは「人よりも信仰の点数が高い」ことで神の国の順位が高くなることを望んでいたのではないのでしょうか。

テストの順位はあくまでも点数の順位であって人間の値打ちを決めるものではありません。しかし、この世においては仕事の成績や試験の点数、持っている財産の量によって人間の値打ちが決められる傾向がありますので、つつい信仰についてもそのように考えてしまいがちです。お祈りや善い行いをすれば信仰ポイントがたまり、あの世で人よりもいい思いができるというふうに考えてしまうこともあります。そこでイエスは、たとえ話を用いて、信仰はそのようなものではないということを語られたのです。

このたとえ話では、しもべが畑から帰ってきたときに主人は食事の用意と給仕を命じます。そして「主人は感謝するだろうか」と言われます。任された仕事とはいえ、主人はちょっと冷たい感じですね。もちろん主人は神、しもべはわたしたちを表しています。ここでは神とわたしたちの間には大きな隔たりがあるように感じられます。これはわたしたちが神に対してしもべのように無条件に尽くさなければならない、という意味ではなく、しもべ同士が「わたしのほうが頑張っている」「わたしのほうが主人から愛されている」と争い合う愚かさを教えられたのだと考えられます。

つまり、人から「立派な信仰だ」「すばらしい行いだ」と称賛されたとしても、それを誇るのではなく、神から与えられた役割を果たしたに過ぎない、ということを見覚するようにたとえを語られたのではないのでしょうか。

信仰とは、神に信頼し、自分をゆだねたときに神ご自身が働いてくださることなのでしょう。そうしてわたしたちは神からいただいた愛を使い、神から赦された体験を分かち合い、「しなければならぬこと」ができるのだと思います。 (柳本神父)